

# 税を見つめて

サレジオ学院高等学校 5年E組 新家 学

最近、現代の若者と昔の若者がよく比較されます。そして、その結果として出る言葉は「最近の若者は良くない。恐い。」と言ったような否定的な言葉ばかりです。当事者として私自身がこの言葉をどのように受けとめているかといえば、社会が否定する茶髪や派手な服装、携帯電話や薬物の乱用など、その多くが大人社会から生み出された産物であり、その影響が若者に及んでいると思えるので、私たちのことを批判し、蔑視する前に、まず大人たちが襟を正す必要があると私は思います。しかし、全てを社会の責任にするつもりはありません。私たち若者にも非はあります。昔と比べると自己中心的で、刹那、快楽的です。周囲のことを考えずに行動し、長期的展望に立たない傾向が強いのは、私も含めて今日の若者の特長と認めざるを得ません。このことを端的な言葉で言い表わすと、私たち現代の若者の中には「甘え」が浸透していると言えるのではないのでしょうか。この甘えの事例は挙げるときりがありませんが、税に対する考え方や思いにも、この傾向がうかがわれると思います。高校2年生にもなってこれくらいのことも知らないのか、と思われるかもしれませんが、私には税に関する知識がほとんどありません。憲法によって納税の義務が定められていること。税には直接税と間接税があること。消費税や関税、酒税などの税金があること。これくらいのことはもちろん知っていますが、このことについて詳しく説明するように求められると、自信を持って相手が納得してくれるような解答を述べるのが出来ません。これでは知らないことと同じように思います。私のほかにどれくらいの若者がこれくらいのレベルであるのかは分かりませんが、こうした状況を打破していくためには、授業をきちんと聞いたり、専門家を呼んで税に関する学習を行う必要があると私は思います。

さて、この理解しきれていない税に対してですが、私たち若者には、なぜ消費税を納めなければならないのか、というように、払われる、取られるという負のイメージが私にはとても強くあります。しかし、これこそが甘えの発想で、目先の利益や自分のことばかりを考えて、全体、社会のことを考えたり、将来を見据えた視点に欠けていると私は思います。大部分の人たちは高校に入学したとき、初めて教科書を買ったのでしょ。今まではいったい誰が買ってくれていたのでしょうか。地盤沈下で崩れてしまった車道、家の前の歩道などはいったい誰が舗装し直してくれたのでしょうか。これらはすべて、税金のおかげで買うことが出来たり舗装し直すことができたのです。

私たちは一人では生きていくことが出来ません。多くの人が集まって集団になり、やがて社会を作っていきます。その社会を支え、発展させていくためにも、様々な活動が展開されていますが、その活動を支援するためにはどうしても資金が必要となってきます。その資金を社会を構成する一人一人から平等に集めようと考えたのが税制度であり、社会を維持し、更なる



発展を遂げていくためにも必要な制度だと思います。納税の義務、教育の義務、勤労の義務と並んで国民の三大義務と呼ばれている理由はこれらのことからであり、社会に属している以上、この義務を果たすことは必須であり、また当然のことで、払われる、取られるというような負のイメージで税を考えることは、甘いと言わざるを得ません。

今年の夏、私は家族と一緒に一週間ばかりでしたが海外へ行きました。父と母の会話を聞いていると、「税関手続き」や「免税店」などの言葉が飛びかっていたのを覚えています。出発が近づくにつれて私と母は友達へのおみやげに何をしようかと頭を悩ませていました。ある日、父が悩んでいる母に、「出かけるだけ免税店で買い物をするように。かなりお得だよ。」と言っていました。私はそのひと言に、自分で驚く位、即反応していました。月に一度は海外出張する父なので、詳しい説明を求めると、単純に税がかからない方法を教わり、出発の日を迎えました。アドバイス通り、私も母も免税店でほとんどのおみやげを買ったのですが、日本での価格より安い上に日本語が通じる店員さんまでおりました。

出国手続きとき、父と母の「高額なものは定められている免税額の範囲に収まっていないといけな。大変だよ。」という会話を耳にしました。私のおみやげなどは、全く対象とならなかったようだが、空港での通関の際、「ぜいたく品を持込んでくると課税される。」という話も耳にしたので、関係のない私まで緊張しました。そのときは税についての関心が少しわいていた私に、ぐんとはずみをつけることになりました。

帰国後、図書館で「関税」、「免税」、「免税率」、「免税枠」といった、あのとき解決出来なかったことを調べることができました。「関税」一つにしても、誤解、間違いの知識が常識として通っている面がある事実を知り、驚きました。「この世で確かなものと言えばそれは死と税金だけだ」。アメリカの政治家であり、科学者、哲学者であったフランクリンの言葉は、驚く反面、なるほどと納得できる面もあります。死ぬのは誰だって嫌だし、税金が大好きなんて人もいないでしょう。死はやむを得ないとして、税金はできるだけさけたいし、嫌われています。嫌っているものは、余計に知りたくないし、余計足が遠のいてしまいます。そのため、間違った税知識がばらまかれるのだと思います。酒、たばこ、車にかかる税、所得税、消費税、法人税、相続税…。浅い知識は付いたが、まだ理解しきれていません。これらのほとんどは将来自分に関わるので、さらに税について調べ、一つ一つ理解していこうと思います。